



みなみ おお はら

南大原遺跡 発掘だより

第1号

2024.6.5

《南大原遺跡の本格的な発掘調査がはじまりました》

6月3日(月)から、中野市大字上今井字南大原ほかで南大原遺跡の発掘調査を行います。現在は、発掘調査に伴う現地プレハブの設置工事等を行っています。

この発掘調査は、上今井遊水地整備事業に先立って実施するもので、11月末までを予定しています。期間中、大型重機をはじめ、車両が出入りしますので十分ご注意ください。

また、調査区域内には危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようお願いします。発掘の見学を希望される方は、事前にご連絡ください。

皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



南大原遺跡空中写真（R5年11月撮影）



弥生時代中期後半の竪穴建物跡

《南大原遺跡ってどんな遺跡？》

『長野県中野市遺跡詳細分布図』（2006 中野市教育委員会市）には、縄文・弥生・平安時代の遺跡として掲載されています。1950年と1957年に神田五六さんと地元の高校生が中心となって発掘調査が行われ、1950年の調査では縄文時代前期後半の竪穴建物跡が見つかり、そこから出土した土器は「南大原式土器」と命名されました。その後、1979年に旧豊田村教育委員会が、2011～2013年と2019・2020年に当センターが、いずれも県道三水中野線改良工事に伴い発掘調査を実施し、弥生時代中期後半から後期を主とした集落遺跡であることが明らかとなりました。中でも、鉄製品を加工したと考えられる工房跡や、^{さいしほ}祭祀場と想定される^{かんじょうどこうれつ}環状土坑列の存在は、注目を集めています。



環状土坑列（立っている人の前に土坑がある）



弥生時代中期後半の土器群



鉄製品・小鉄片・焼成粘土塊

《令和5年度の調査成果》

「上今井遊水地だより」令和6年2月号でお知らせしましたとおり、右図のA・C区でトレンチ（試し掘り）調査を、緑線の部分で地層採取調査を実施しました。

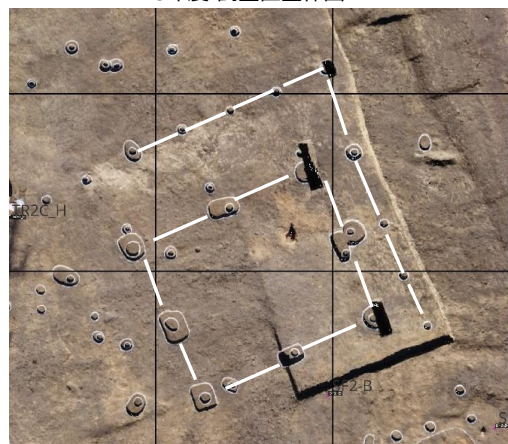
その結果、A区の調査では弥生時代中期後半の土器や平安時代の灰釉陶器等とともに、重複する平安時代の竪穴建物跡や、時代は特定できておりませんが、掘立柱建物跡・溝跡が確認されました。

C区及び地層採取調査や古地理復元分析調査の結果、江戸時代以降の水田跡の分布範囲が、地域に遺る「上今井耕地絵図」（東江部村山田庄左衛門家文書）と一致することが明らかとなりました。

また、この江戸時代以降の水田層の下からは、奈良時代の掘立柱建物跡の他、焼土跡や溝跡等の遺構群が検出され、南大原遺跡でも奈良時代の人々の生活の痕跡があったことが確認されました。



R5年度 調査区全体図

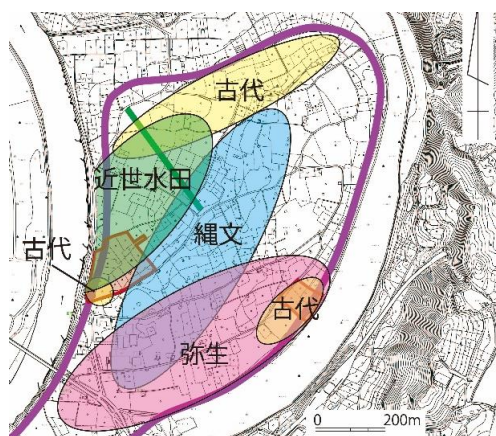


C区で検出された奈良時代の掘立柱建物跡

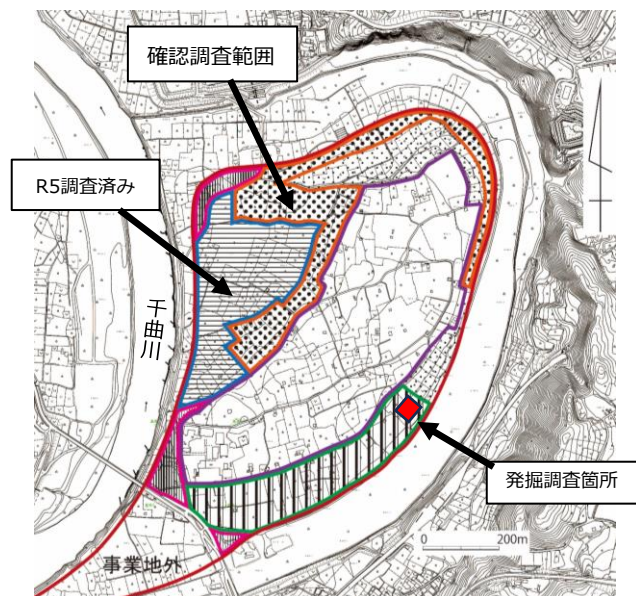
《令和6年度の調査》

本年度は、事業地内の逆川・舞台・北大原地籍と鍋久保地籍の一部でのトレンチ調査と、昨年度のA区内での本格的な発掘調査を、同時並行で進めていく予定です。昨年度の調査成果から想定した各時代の領域が想定通りとなるのか。新たな発見があるのか。

立ヶ花で狭隘になった千曲川沿いには、南大原遺跡を含め、対岸の栗林遺跡、下流の千田遺跡・川久保遺跡・琵琶島遺跡・柳沢遺跡と縄文時代や弥生時代を代表する遺跡が分布しています。どんなお宝が埋まっているか、今後の調査に乞うご期待です。



想定される各時代の領域



R6年度 調査区全体図



長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話：026-293-5926

担当：上田/水科/町田/山田/黒岩

支援業務（公社）日本文化財保護協会

小田/南田/石川/千葉/入江/浅間/佐藤

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp>